

校内研究について

1、学校教育目標

「自ら学ぶ子、豊かな心を持つ子、健やかな体の子」の育成

めざす児童像

◎よく考える子 ◎思いやりのある子 ◎元気いっぱいの子

2、研究主題

『自ら考え、自分の思いや考えを表現できる子の育成～国語科の学習を通して～』

3、児童の実態

【これまでの研究から】

- ・導入や学習意欲を喚起するような工夫により、子どもたちは意欲的に学んでいこうとするようになってきた。
- ・国語辞典を活用し、個人差はあるが、付箋を増やしたり、わからない言葉があるとすすんで調べたりする姿が見られるようになってきた。
- ・一方で、言葉の乏しさが見られ、語彙力を増やしていくことが課題である。
- ・全体の前で話す経験が浅く、人前で自信を持って話す力を身につけさせていく必要がある。

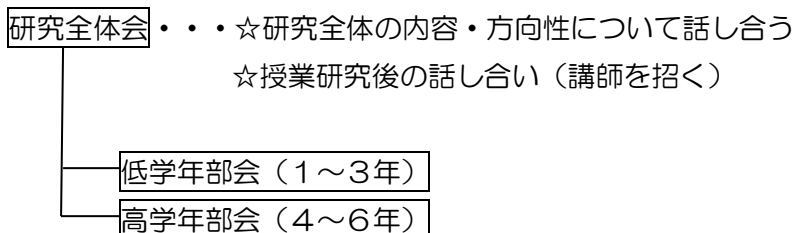
4、具体的手立て

- (1) これまでと同様、導入、教具の工夫をし、学習への興味関心を高めていく。
- (2) 教育活動全体の中で、表現力や発言力を育成する場を多く設定する。
- (3) 読む目的意識の定着、資料を客観的にみる力の構築、論理的な思考の場の設定、伝え合う場の設定
- (4) 授業の中で「書く」時間を多く設定する（作文、日記、感想、一言メッセージ等）

5、研究の取り組み

- ・「国語」の授業研究（専科は教科別）を実践し、互いに参観し合い、授業後は意見交換し指導力を高めていく。
- ・講師を招いて指導助言をいただき、今後の授業に役立てていく。
- ・授業研究については、2学年（2時間）展開を目安にすすめていく。

6、研究の組織



7、研究のまとめ

○子どもの変容をみて、年間の成果と課題をまとめていく。

- ・個々の子どもの伸びと学級全体の変容をまとめていく。
- ・「～の手だてをとったら、～になってきた」等